



2022年12期 第3四半期  
**決算説明資料**

株式会社アイ・エス・ビー

証券コード：9702

# 2022年12月期3Q 連結損益計算書



DX化の影響により引き続きIT投資需要が高まる中、モビリティ、ビジネスインダストリー、エンタープライズの3分野で受注が堅調に増加し、前年同期比増収。調達コスト上昇や、営業活動の拡大、技術者の採用および教育、テレワーク環境整備のための電子化等の生産性向上費用の増加を吸収し、利益も前年同期比増益。

(単位：百万円、%)

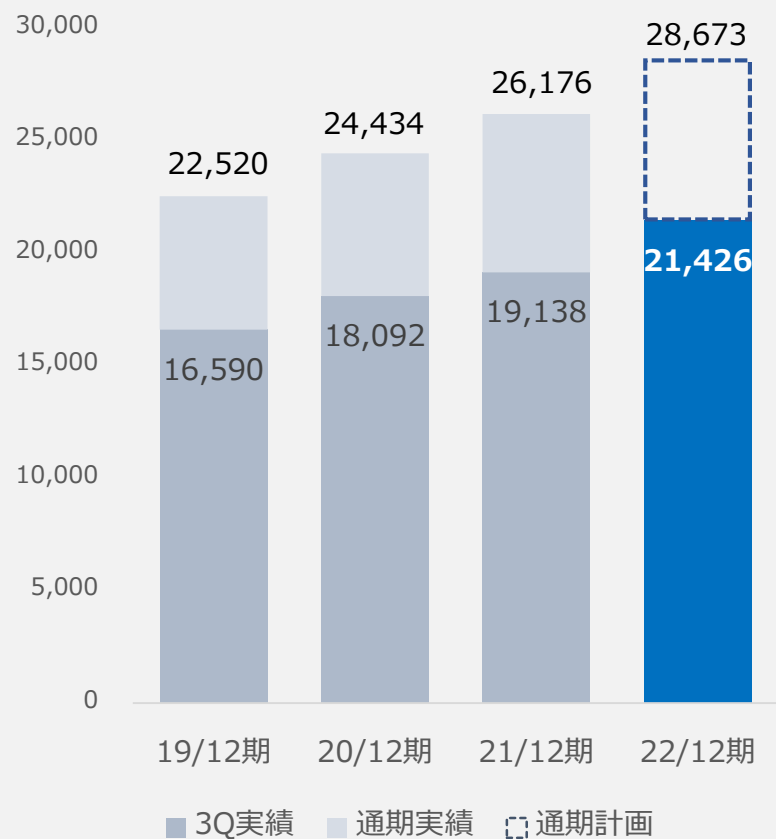
	2021年3Q 実績	2022年3Q 実績	増減	前年同期比	2022年通期 予想
売上高	19,138	<b>21,426</b>	+ 2,288	112%	28,673
営業利益	1,330	<b>1,722</b>	+ 392	129%	2,286
営業利益率	7.0%	<b>8.0%</b>	+ 1.0pt	-	8.0%
経常利益	1,376	<b>1,762</b>	+ 386	128%	2,353
親会社株主に帰属する四半期純利益	784	<b>1,049</b>	+ 265	134%	1,404

# 連結損益の推移

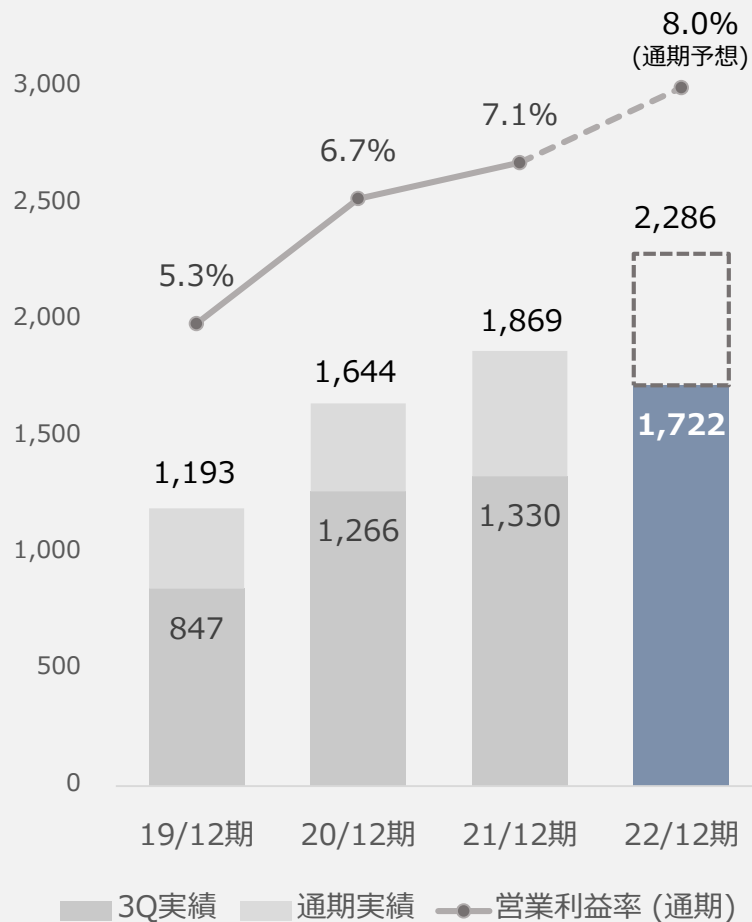


(単位：百万円)

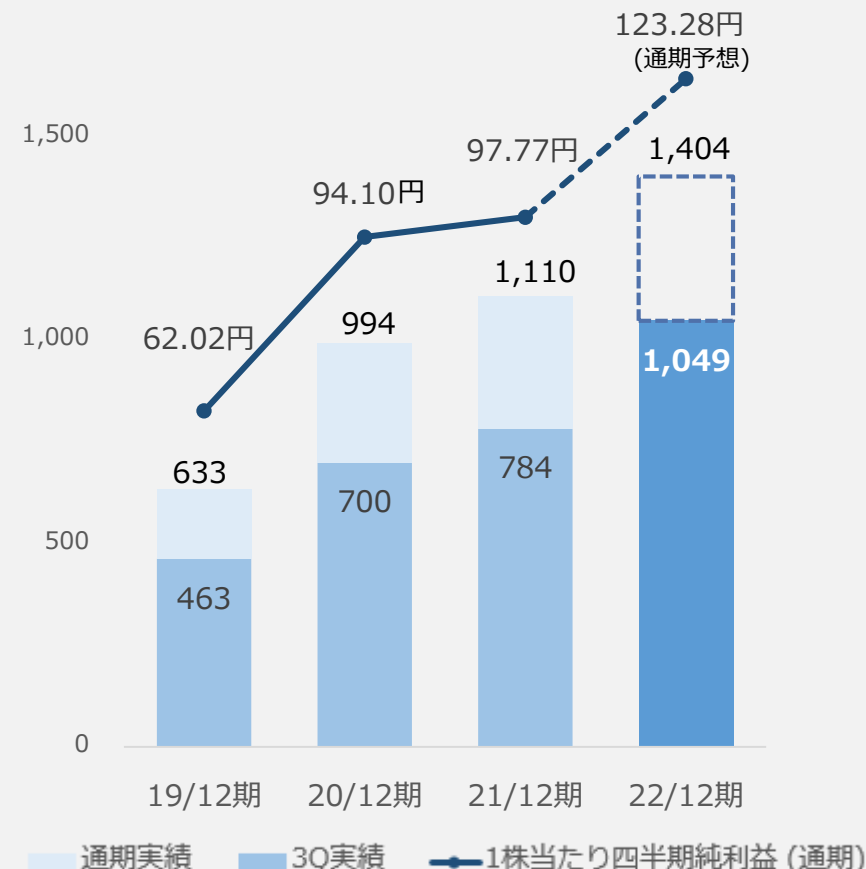
## 売上高



## 営業利益



## 四半期純利益(1株当たり)

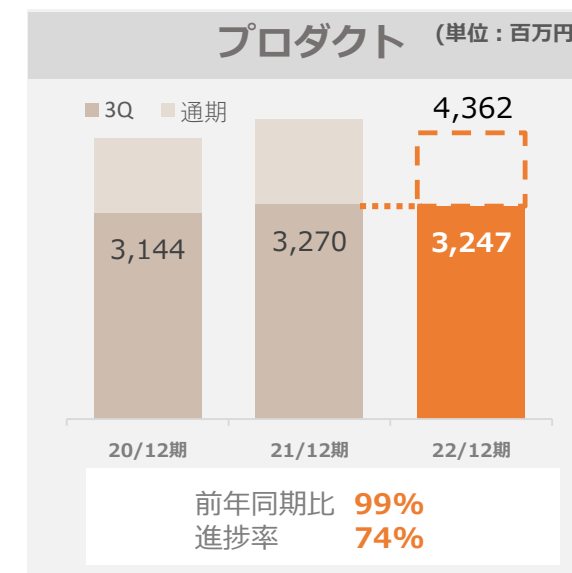
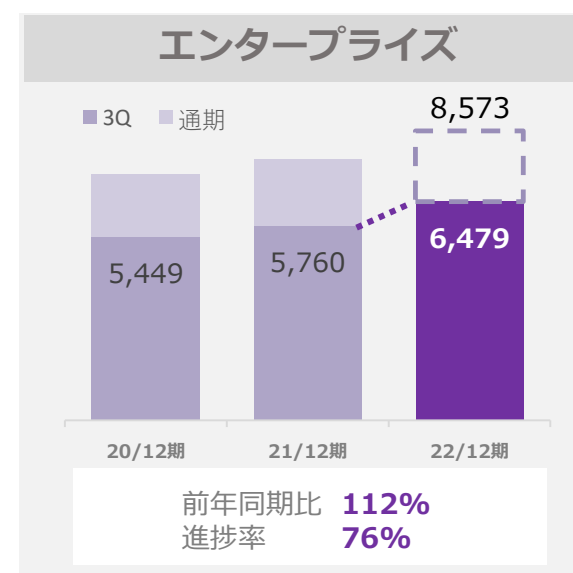
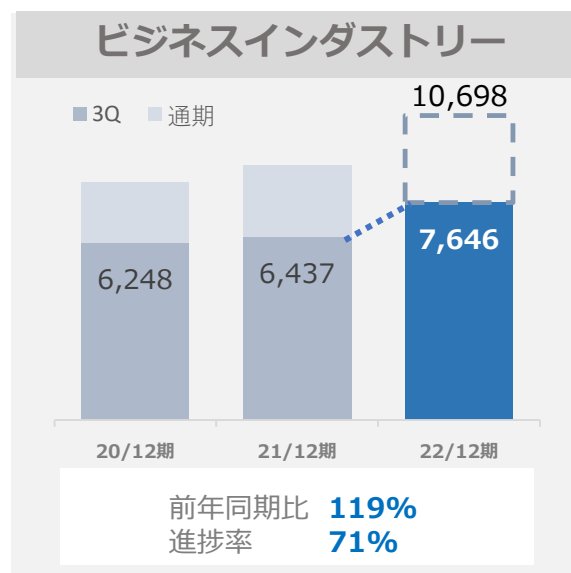
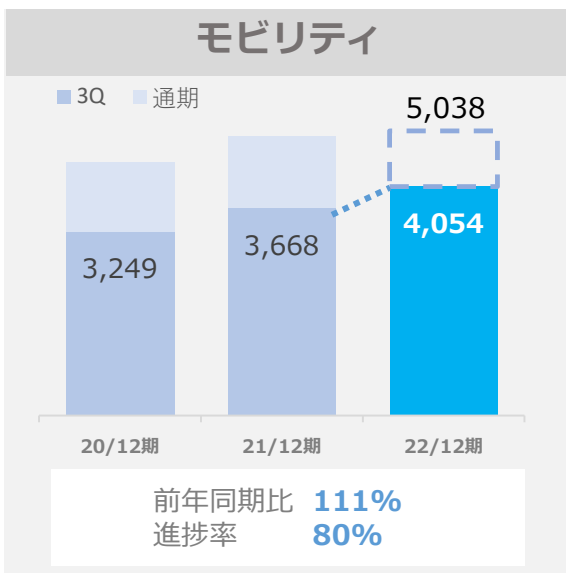
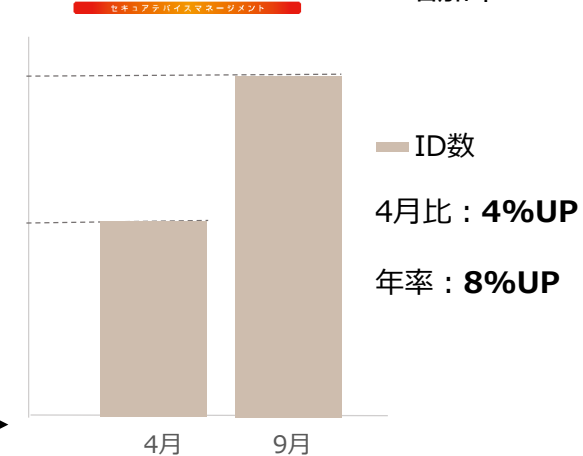


# 2022年12月期3Q 事業分野別売上高



モビリティ	車載系は既存顧客からの受注が引き続き好調。新規顧客からもEV関連業務を受注するなど、堅調に推移。携帯端末・5Gは横ばいだが縮小の見通しのため、案件が潤沢な車載・通信分野にシフト。
ビジネス インダストリー	医療系は既存顧客からの受注は漸増。医療クラウドなどにより新規顧客からの受注も堅調。組み込み系はIoTをはじめ、引き続き受注が堅調に推移。
エンタープライズ	インフラ系は引き続き半導体不足の影響を受けるが、クラウド案件へのシフト、継続した案件確保を推進。金融系は既存顧客の受注が堅調に推移し増加。
プロダクト	半導体不足による影響を受け減収だが、リカーリングビジネスは堅調。MDM事業は営業・販売から保守までワンストップサービスに加え、営業力強化により新規顧客が堅調に増加。

## VECTANT SDM ID 増加率





本資料は、2022年12月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供と、当社に対するご理解をより深めて頂くことを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は2022年9月末時点の状況において作成しております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。